

2019年3月4日

プレスリリース

**中小企業向け事業保険のエヌエヌ生命
高校生のためのソーシャルビジネス企画コンテスト
「Social Innovation Relay 2018/19」国内大会を開催
優勝は本郷高等学校「AMOS」チームに決定**

生命保険を通じて日本の中小企業を応援するエヌエヌ生命保険株式会社(代表取締役社長:フランク・エイシク、本社:東京都千代田区、以下「エヌエヌ生命」)は、このほど高校生のためのソーシャルビジネス企画コンテスト「Social Innovation Relay 2018/19(ソーシャルイノベーション・リレー)」国内大会を開催し、優勝チームを決定しました。

当大会は、学生自らが身の回りにおける課題を見つけ、ソーシャルビジネスとして解決すべくアイデアを国内外の高校生たちと競うコンテストとして、2015年より行っています。

大会当日は、全国約122チーム(参加生徒数387名)の中から第一次、第二次の書類選考を勝ち抜いた7チームが会場に集合しました。原則8分という限られた中で、ライバル校の学生や教員、3名の審査員を前に、全てのチームとも熱意を持ってビジネスアイデアをプレゼンテーション方式で発表しました。ビジネスアイデアの傾向として、社会の動向を反映し、課題を解決する際にAIやITを大いに取り入れたプランが多く見られました。その中で次の3チームが上位を飾りました。

- 1位 本郷高等学校「AMOS」チーム(東京都豊島区)
テーマ:「孤独死予防」
- 2位 本郷高等学校「Express」チーム(東京都豊島区)
テーマ:「林業を救おう!」
- 3位 旭川大学高等学校「yumepirika」チーム(北海道旭川市)
テーマ:「睡眠負債を減らそう」

1位の「AMOS」チームは、日本のみならず海外においても増加傾向にある働き盛りの単身者や高齢者の「ひとり死」に着目し、「AMOS」という人工知能アプリケーションの開発を通じて「ひとり死」を減少させるビジネスアイデアを発表しました。

具体的には、個々の行動関連データや生体データなどから行動パターンや趣味嗜好、また健康状態などを分析し、個人に合った改善方法や予防策へのアドバイスを全てアプリケーション上で行うサービスです。また、万が一のために服薬管理や緊急時の際の病院との連携を瞬時にやり、さらには趣味嗜好にマッチする周辺地域のイベントの提案など、情報やサービスを「AMOS」で一元管理する仕組みです。

プレゼンテーションでは、特に単身者においては仕事以外における日常会話が2日から3日に1回以下、というチームの独自調査結果を用いつつ、問題解決にはAIやITソリューションの応用による、しっかりとしたデータ分析や関連機関との連携が重要となる点を掲げ、考案したビジネスモデルで訴えました。

「AMOS」チームは、今年6月に予定されている国際大会(13カ国の参加予定)に進みます。

本郷高等学校「AMOS」チームリーダー村上 英仁さんのコメント:

「私たちチーム AMOS を選んでいただき誠にありがとうございます。名前が呼ばれた時は驚きの方が大きく今でも夢ではないかと信じられない気持ちです。長い期間を掛けて話し合いをし、追求すればするほど悩み、苦しい時もありましたが、出来ることを全力で取り組むことを最後まで貫きました。悩んでいる時に、チームのメインキャラクター『Sir AMOS Man』が誕生し、私たちのチーム力とともに士気も高まりました。いつでもサポートをしてくださるメンターがいて下さるということは私たちの大きな支えになっておりました。また、国内決

勝大会まで本当に多くの方々に支えて頂き心からお礼申し上げます。日本代表として最善を尽くして国際大会への準備をしていきたいと思ひます。『Sir AMOS Man』と一緒に頑張ります！」



写真左：集合写真

写真右：優勝チーム AMOS



「Social Innovation Relay 2018/19」 大会概要

大会名: 「Social Innovation Relay 2018/19(ソーシャルイノベーション・リレー)」

共催: エヌエヌ生命保険株式会社、NN グループ
公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本、
ジュニア・アチーブメント ヨーロッパ(Young Enterprise)



実施日時: 2019年2月17日(日)

出場チーム: 本郷高等学校 (東京都豊島区) チーム名:VMF
テーマ:「視覚障害者イヤホン」
本郷高等学校 (東京都豊島区) チーム名:Express
テーマ:「林業を救おう！」
松本秀峰中等教育学校 (長野県松本市) チーム名:Ptarmigans
テーマ:「アフリカの医療廃棄物ドローン」
本郷高等学校 (東京都豊島区) チーム名:Mikachan-zu
テーマ:「視覚障害者用歩行補助器具」
本郷高等学校 (東京都豊島区) チーム名:AMOS
テーマ:「孤独死予防」
旭川大学高等学校 (北海道旭川市) チーム名:yumepirika
テーマ:「睡眠負債を減らそう」
本郷高等学校 (東京都豊島区) チーム名:No Limit
テーマ:「食料品売り場のAI活用」

実施方法: プレゼンテーション8分、質疑応答5分。審査員による審査で優勝チームを決定

審査員: 本木 裕子氏 NPO 法人 ETIC. ソーシャルイノベーション事業部
上山 顕氏 株式会社 TSUTAYA サービスカンパニー 営業推進部 部長
佐川 秀雄 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本 代表理事

アワード: (国内大会優勝)オンライン国際大会出場権と図書カード、表彰状
(同準優勝・3位)図書カードと表彰状

ご参考:

ソーシャル イノベーション リレー

□ 「Social Innovation Relay(SIR)」

「SIR」は、高校生のためのソーシャルビジネス企画のコンテスト形式の教育プログラムです。高校生が自ら情報収集・分析をして社会的課題を見つけ、その解決方法としての「ソーシャルビジネス」のアイデアをチームごとに競い合うもので、アクティブラーニング形態をとっています。日本は昨年よりこのコンテストに参加しており、国内大会での優勝チームはオンラインの国際大会へ進出。国際大会で見事優勝したチームは、ヨーロッパで開催されるSIR 修了生カンファレンスに招待される予定です。

□ ジュニア・アチーブメントについて

1919年に米国で発足した世界最大の経済教育団体で、民間の非営利活動を展開しています。日本本部は1995年に設立。以来、教材を導入する学校が全国に拡大しています。社会情勢がいかように変化しようとも、子どもたちが自身の確たる意志で進路や将来を選択・設計できるよう、「社会の仕組み」や「経済の動き」を正しく理解する機会を提供し、基本的資質(主体的に社会で自立できる力)を育む支援を続けています。詳しくは、ウェブサイト www.ja-japan.org をご参照下さい。

□ エヌエヌ生命の社会貢献活動「未来の社長」について

エヌエヌ生命は、「未来の社長」を社会貢献活動のテーマに据えています。日本の中小企業を支える生命保険会社として、次世代を継ぐ学生や子どもたちに教育機会や起業・経営に関する育成機会の創出を目指しています。「SIR」の取り組みのほか、NAHA マラソンでのエヌエヌ・チャリティランナーによる沖縄の児童養護施設への教育支援、経済的に困難な状況にある家庭の子どもたちの学習を支援するNPO法人「キッズドア」を通じた教育支援活動、および、次世代の経営者に向けた「家業イノベーション・ラボ」のプログラムを展開しております。詳しくはこちらをご覧ください。

本件に関する問い合わせ先

エヌエヌ生命保険株式会社 広報部 TEL:03-5210-5599 FAX:03-6685-7700

エヌエヌ生命は、オランダにルーツを持ち、170年におよぶ伝統を誇るNNグループの一員です。NNグループは、欧州および日本を主な拠点とし、18カ国にわたり、保険および資産運用事業を展開しています。その名は、源流である「ナショナル・ネーデルランデン」に由来しています。エヌエヌ生命は、1986年に日本で初めてのヨーロッパ生まれの生命保険会社として営業を開始して以来、30年以上にわたり、中小企業とその経営者が財務や財産の面で安定した将来を確保できるよう支援しています。